

令和4年8月17日

蕨市長 頼高 英雄 様

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

会長 林 大樹

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見について

本有識者会議は、市長より委員の委嘱を受けて、令和4年7月28日に蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について検証を行った。

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる取組は、新型コロナウイルス感染症の影響が生じながらも、地方創生の推進に向けて概ね着実に実施されているものと思われる。

今後も、新型コロナウイルス感染症にも対応しながら、持続可能な都市として発展し続けるため、引き続き、本戦略で掲げる取組を推進されたい。

なお、検証の過程で出された意見については、別添の「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見」に整理したので、施策・事業の推進にあたっては十分に配慮・検討されたい。

別添

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見

(全体)

○近年、社会増が続いていた本市の人口動態は、令和3年度については社会減が生じた。このことについては、外国人の転入の減少や、若年層の転入超過の相対的な減などが影響しているが、コロナ禍による一過性のものであるか経過を注視しつつ、将来にわたり持続可能な都市として機能を果たしていくための課題を分析し、今後の施策に反映していくことが重要である。

(蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について)

○合計特殊出生率については、令和2年は国勢調査の実施年である影響から例年より高い値(1.18)となっているが、依然として県全体で見ると低い水準である。まちの活力を維持していくため、子育て世代の定住促進を図ることが重要であり、住みよく、選ばれるまちづくりを目指した施策の推進を引き続き図られたい。

(蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について)

- 蕨駅西口の再開発については、子育て施設や医療施設などの環境の充実もあわせて推進することにより、子育て世代から選ばれるまちづくりにつながるよう取り組まれない。また、市の各施策に加え、再開発により、蕨のブランド力が向上することで、若い年代を呼び込むことにつながることを望ましい。
- 駐車場化や住宅化が進んでしまっている駅前商店街をはじめとした商店街について、空き店舗対策やエリアリノベーション事業などの取組によって、にぎわいの復活を進められたい。
- 犯罪発生件数は、町会のパトロールをはじめとしたさまざまな取組によって、大きく減少してきている。引き続き防犯活動やまちの整備を進めることにより、安全安心で住みよく、選ばれるまちづくりに取り組まれたい。